

「爪印が記された文書を読む」

「賭之勝負事御制禁ニ付村中連判状」

(林家文書No.七八四)

申渡覚

博奕都而賭之勝負事、
兼々嚴重ニ被仰付有之
候處(処)、當(当)四ヶ年以前、酉七月中
從公儀、大御目附御廻状
嚴敷被仰付、小前印形取
請書役所江差出置候、
其後も度々被仰付、此方共
廻村之上、嚴申聞置候處(処)、
此度、從公儀御達有之候
者、近頃世上相免博奕
有之趣、被仰出、依之捕方
廻勤被差出、村々被相廻候
間、左様相心得、抑之手磨
ニ而も決而致間敷候、萬(万)一
被召捕候而者、村方難渋ニ
相成、其上上之御名茂
出甚不輕義ニ候間、急度
相慎候様、惣百姓江得与
申聞、精々心得違無之様
可致候、

子九月

郷目附役所

前書之趣、郷御目附様
其外御役々様方、御廻村之上、
段々御利害、嚴被仰渡
候儀、此度御寄會（会）之上、具二
被仰聞一統承知畏入候、
依之私共請印仕并悴共迄
爪印仕差出候上者、何等不寄
人寄等、都而賭之勝負事、
決而仕間敷候、為後日連印之
一札差出申処、仍而如件、

文化元甲子年九月

赤尾村

同人悴左大指爪印

伝兵衛（印）

仙之助（爪印）

吉兵衛（印）

喜平太（印）

同人悴同

牛松（爪印）

三右衛門（印）

同人悴同

安五郎（爪印）

忠右衛門（印）

定右衛門（印）

喜四郎（印）

同人悴同

浅五郎（爪印）

与兵衛（印）

平治（印）

久八（印）

義平治（印）

同人悴 左大指爪印

吉治郎（爪印）

